

2018年10月吉日
株式会社やずや

報道関係各位（企業情報）

10年前から始まっていた

「やずや働き方改革」。

2つの取り組みで

退職者減少、女性社員定着！



2017年の流行語大賞にノミネートされた働き方改革ですが、やずやではすでに10年ほど前から、社内の問題に気づいた社長の矢頭徹が「やずや働き方改革」をスタートさせていたのです。今から約10年前の平成21年以降、やずやの退職者が徐々に減少し、女性社員が定着するようになりました。

理由は一体どこにあるのでしょうか。

社長発信！「早く帰ろう運動」の定着

今でこそ、19時以降に会社に残る社員はほとんどいなくなりましたが、10年前のやずやは全く違ったのです……。

18時になったらちょっとブレイクタイムを挟んで、さあ、仕事！と言わんばかりに更にエンジンをかける社員も決して少なくありませんでした。

当時からいる社員に聞くと、「18時以降も自分のペースで働いていいと思っていた」と。

そんな光景を目にした社長が、自己成長のためにも自分の時間を大切にしてほしいと、まずはフロアを回って「明日でいいことは明日に回して。早く帰って」と何度も何度も声をかけ、それを

見た役職者たちが社長にそんなことさせてはいけないと週2回の「**ノー残業DAY**」が始まったのです。

この運動を始めた当初は、役職者たちも本当に帰ってくれるのか不安でたまりませんでした。

しかし、「やるからには実現できるための仕組みを徹底的に考えて！」という

社長の一言に、今やっている仕事を本当に社員がやらなければいけないのか、手作業でしなければならないのか、システムを作って自動化できるものはないのかを徹底的に考えたのです。

その結果、最初は半信半疑で「今までずっとこうしてきたのに、いきなり早く帰るなんて無理」「自分でするのが一番効率的なはず」となかなか積極的になってくれなかった社員たちも、

「早く帰ろう運動」という改革に積極的になってくれたのです。

もちろん、全社員の意識改革をして定着させるのは1年、2年でできることではありませんでした。ただ、常に言い続けることで徐々に徐々に浸透し、定着するまでになりました。

「自分の時間を有効に使う」

当初社員の口に上がっていた「本当は早く帰って習い事を始めたかった」「異業種の方との交流の時間を作りたいかった」以外にも、「家族との時間が増えた」「しっかり切り替えて次の日の仕事に向き合えるようになった」と、皆にとって「早く帰ろう運動」は画期的な改革となったのです。

出産後の未来が描ける！？「**やずや保育園**」設置による安心感

ここ10年の変革で忘れてはいけないのが「**やずや保育園**」の設置です。

女性社員が約7割を占めるやずやにとって、結婚・出産で女性社員が辞めていくことはとても痛手でした。せつかく数年間かけてリーダーにまで成長し、これからは後輩の育成にも力を入れていって欲しい。そう思った矢先に結婚や出産で退職してしまう。そんな現実をどうにかしたいと思っていた現会長で、当時社長であった矢頭美世子が「**やずや保育園**」の設置に乗り出したのです。

そして平成21年、社内託児所である「**やずや保育園**」を設立しました。

設立当初は数名しかいなかった子供たちも、今では20名近くにまでに増えて、子供を育てながら働くというのは今や、やずやの中で当たり前になっています。

女性役職者が6割以上を占めるやずやにとって、キャリアはそのままに、結婚、出産しても働いている自分の姿を描けるようになったことはとても大きなことでした。

10年前には1%未満だったママさん社員も今や10倍以上。

「やずや保育園」の設立は、会社にとってもママさん社員にとってもメリットとなっています。



「ワーク・ライフ・バランス」

一言で表現するのはとても難しいものがあります。

ただやずやは、「楽しい会社」を目指しています。

仕事の楽しみを理解し、その延長線上でお客様も幸せになっていただき自分たちも幸せになり喜ぶ。

そのためにやずやは社員の变化と共に、会社自体も少しずつ変化していこうと考えています。

【取材等のお問合せ先】

やずや広報担当／^{たけむら}竹村 TEL 092-526-0828 (代表) <https://www.yazuya.com/>

株式会社やずや／〒815-8686 福岡市南区那の川 1-6-14